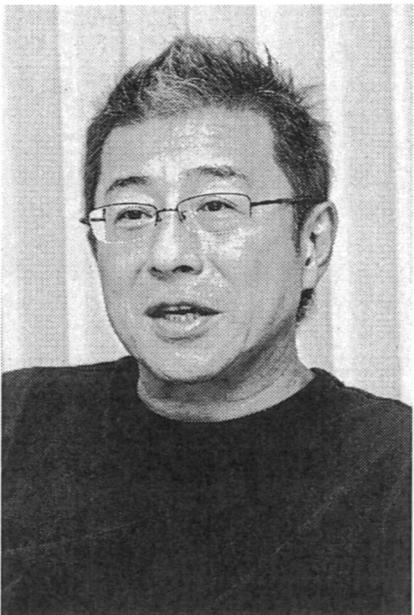


日刊建設工業新聞

Vers Une
建築
Architecture

中国・清華大学客員教授に就いた 国広ジョージ氏 (國士館大学教授)



日本は目覚めないといけない

（国土館大学教授）。中国で建築教育に携わり、世界が注ぐ中国への期待を肌で感じ、「日本は世界と違った路線に進んでおり、合わせようとはしない。日本は目覚めないといけない」と警鐘を鳴らす。今秋開かれる国際建築家連合（UIA）2011東京大会の広報部会長として、またアジア建築家評議会（アルカシア）の会長として、世界中を飛び回る国広氏に話を聞いた。

(編集部・山口裕照)

ことで、消費力がどの程度あるか、戦略を持っているかだけではなく、世界が中国の建築をどう見て、今後どれほど期待しているのか、を目の当たりにしています。

アガ・カーン
建築賞の幅広がる

アガ・カーン4世が1977年に設立した「アガ・カーン建築賞」は、イスラム圏でイスラム文化を体現する優れた建築プロジェクトを顕彰するものです。

ないとい

卷之三

35位、北京大が43位に入りました。中国の大学がこうしたランキンġに出たのは初めてで、今後10年でトップ10入りすることを國家戦略にしています。

清華大の建築学部では、英語で授業を行つ「EPMA」（イングリッシュ・プログラム・マスター・アーキテクト）を開講します。1学年は15人で、さまざまが、近年、その内容が変わってきています。アガ・カーンは建築を「コミュニケーションツール」と捉えていて、イスラムを世界的に理解してもらつことを賞の目的としている。イスラム圏外でイスラム建築でなくとも賞の対象とし、世界中から幅広く候補作を求めています。

今回（第11回・2010年）は、中国やスペインで受賞作が生ま

学金を与え、プリツカー賞を受賞した建築家の事務所に半年ほどインター・ンシップに行くことができる制度です。この財団が特定の国や大学に奨学金制度を設けるのは世界で初めてのことです。

日本は世界と違つ路線を進んでおり、合わせよつとしない。21世紀はアジアの世紀であり、欧米を向いていりだけでは駄目です。世界はポストBRICs（アラジル・ロシア・インダ・中国）とされるVISTA（ペトナム・インドネシア・南アフリカ・トルコ・アルゼンチン）を見据え、絶えず動いている。日本は自覚めないといけません。

世界が中国の建築を育てる

まな国から学生が来て います。

世界は絶えず動いている

れました。中国の作品はイスラ

学生となる予定です。プリツカーモートを行っていきました。

一は、中国の建築家に良い建築をつくつてもらい、プリツカーサンを取つてほしいと思っていました。5月の調印式には自ら清華大学に来て、プリツカーサンのプロモートを行つていきました。